

いしづち

2023.1

JANUARY

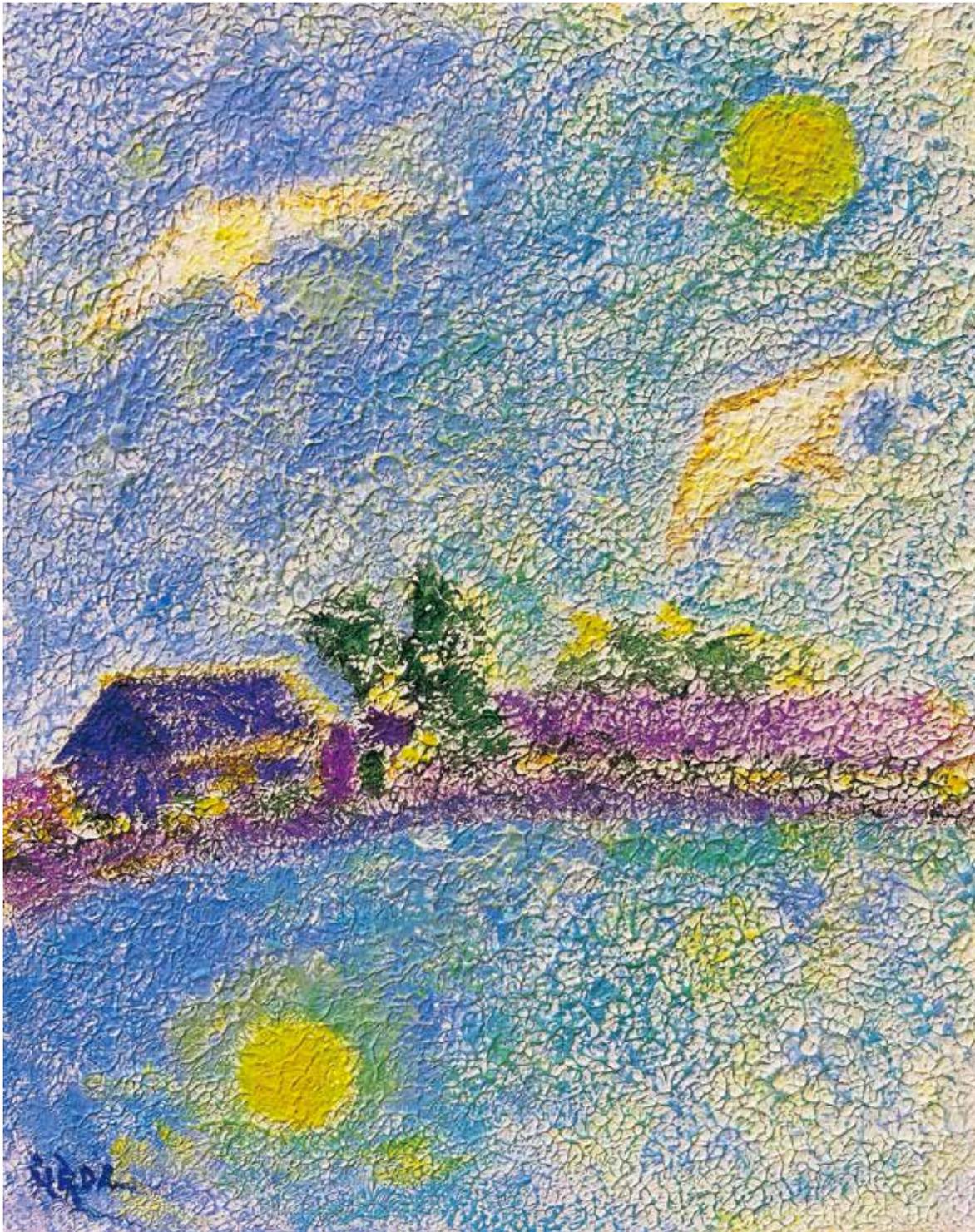
No.150



公益社団法人 愛媛県建築士会

Ehime Society of Architects & Building Engineers

<http://www.ehime-shikai.com>

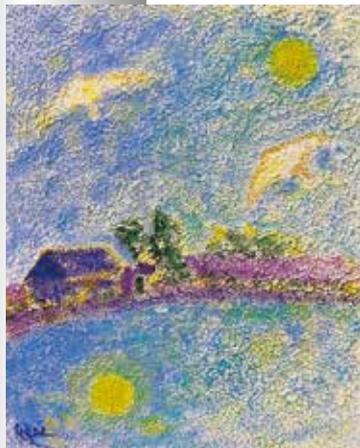


新年のご挨拶
年男・年女の抱負
デジタル・アーキテクト

CONTENTS

1	新年ご挨拶	愛媛県建築士会 会長 尾藤 淳一……①
2	年男・年女の抱負	無事名馬 四国中央支部 石川 潤二……② うさぎとカメ 四国中央支部 高橋 智洋……② 年男の抱負について 新居浜支部 岡田 陽英……② お遍路 西条支部 篠原 健治……② 卯年生まれの72歳 今治支部 矢野 房義……② 人とのつながりを大切に…… 松山支部 入船 安紀……② 今後のこと 松山支部 二宮 廣史……③ 前向きな年男 松山支部 峰岡 秀和……③ 第2の人生のスタート 伊予支部 倉岡 義典……③ 残りの人生 八幡浜支部 上田 浩二……③ 抱 負 宇和島支部 酒井 久和……③
3	デジタル・アーキテクト	道上壯/VUA……④
4	道後温泉の外湯について(後編)	一級建築士 野本 健 文化財・まちづくり委員会 委員 花岡 直樹……⑥
5	世界建築紀行	急坂とケーブルカーの街サンフランシスコ 西予支部 松山 清……⑫
6	建築士会全国大会あきた大会	全国大会「あきた大会」に参加して 会長 尾藤 淳一……⑩ 青年委員会セッション地域実践活動発表 青年委員 大内 雄志……⑪
7	委員会活動報告	おはぎ茶屋になった登録有形文化財建物「旧鈴木邸」 文化財・まちづくり委員会 景観部会 中山百合子……⑫ 令和4年度 中四国ブロック若手建築志(士)交流会in香川報告 青年委員 政石 信行……⑬ 青年委員会主催「支部対抗ソフトバレーボール大会」 優勝報告 松山支部 松平 定真……⑭ 9位報告 今治支部 白石 耕平……⑮ 女性委員会主催「宇和島史跡めぐりツアー」 女性委員 田中 陽子……⑯
8	支部報告	三津浜を散策しながら親睦を深めよう！ 松山支部 南地区 高須賀範昌……⑰ 伊予支部活動報告及び計画について 伊予支部 支部長 渡辺 大記……⑱
9	けんちくの輪	建築士会活動を振り返って 松山支部 花岡 直樹……⑲ わたしのけんちくの輪 宇和島支部 櫻井 一博……⑲
10	お知らせ	令和4年度 第4回、第5回理事会概要報告 事務局……㉑ 専攻建築士(新規・更新)登録申請受付期間のお知らせ 事務局……㉒

※尚、表紙及び本誌記事の無断転載を禁じます。



アクリル画

題：「たびだち〜尾首の池と玉井邸」
(愛媛県喜多郡内子町) おくひ

[表紙画について]

昔ながらの農村風景が広がる内子町立石の尾首地区。標高400mにある尾首の池は、江戸時代より地区の水瓶として立石地区の農業を支えてきました。尾首の池は、尾首地区に残る約30のため池の中で最大の大きさです。晴れた日には、大川嶺や笠取山を臨むことができます。池のほとりに佇む玉井邸は、草ぶき屋根を有し日本の原風景を見ることができます。

表紙作者 上田 勇一 プロフィール

- 1974 東京生まれ
- 1980 小学校から高校まで松山在住
- 1990 東日本建築教育研究会製図コンクールにて奨励賞
- 1991 愛媛県内高校生建築競技設計にて会長賞
(愛媛県建築士事務所協会主催)
- 1993 画家・高橋勉氏に師事。約10年間、古典絵画技法全般を学ぶ
- 1996 日本工業大学建築学科 卒業
- 1998 画家として活動開始する。東京や埼玉にて毎年個展開催
- 2002 日本ファンタジーノベル賞受賞作者「世界の果の庭」
(新潮社)の装丁担当
- 2003 美術家の登竜門である昭和会にて優秀賞(東京/日動画廊)
- 2010 愛媛県美術館に作品「ドライフラワー」収蔵される
- 2015~17 愛媛新聞 冊子アクリート表紙画連載
絵画教室やオリジナルブランド額工房「柳リチエルカ」を設立
- 2017 「えひめの塗り絵」を出版
その他、出版装丁画や受賞多数、全国にて個展中心に活動。
現在、現代日本美術会 会員/審査員

新年ご挨拶

年頭にあたり

1

愛媛県建築士会 会長 尾藤 淳一



新年あけましておめでとうございます。

皆様におかれましては、令和5年の幕開けに今年の1年の計をたてられたことと思います。私事ではござい

ますが、今年で還暦を迎えました。お陰様で健康面に心配なところはないのですが、若い時と比べれば無理が利かなくなってきましたので、人並みには気を付けようと思っています。

さて、昨年6月に会長職を拝命してはや半年になりました。愛媛士会では委員会に出席のほか、女性委員会主催の宇和島史跡巡りツアーや青年委員会主催のソフトバレーボール大会に出席しました。連合会では、総会・中国四国ブロック協議会・全国大会（秋田大会）へ出席したほか、連合会の総務・企画委員会に所属することになりました。また、愛媛県とは災害協定に基づく応急危険度判定士派遣業務に関して、実際の招集方法を確認するとともに、他団体との連携についても協議を進めているところです。各支部長様には、「若手技術者のための施工の心得」講習会の開催や「けんばい」の推進をお願いしています。

今までは新型コロナウイルスの影響で活動の制限があり、思うように活動ができませんでしたが、ワクチンや治療薬も出てきましたので、感染対策をしながらではありますが、そろそろ活動を再開してもよい頃だと思います。実は建築士会は設立70年の節目を迎えています。理事会でご協議頂きますが、70周年記念事業を考えております。建築士会に所属している会員が、一般の街の人に認識してもらい、活

動を評価して頂けることによって、会員個人はもとより、建築士会自体の社会的地位の向上に繋げていけるようにしたいと思います。

そういいますのも、昨年は建築士試験の監理業務に携わりました。近年の傾向として、受験資格制度の変更もあり、合格者と資格登録者の数字のずれが出てきているそうです。また、合格しても入会しない、入会しても1年で退会をするという問題があります。合格者と登録者のずれは、実務経験の年数によるずれであるならば解消されるでしょうが、会員が増えないという問題は深刻です。会員を拡大しようにも、個人情報保護法によって合格者が誰なのかわからない状態です。ここは各支部の役員様をはじめとして地元で、身近な情報に触れる機会が多い方に一肌脱いでもらうしか手がありません。ただ、その前に本部や支部の活動が、地域にとって有意義で必要とされる活動であって、地域の人から認知され、会員外の建築士と差別化できるようになれば、建築士や建築士を目指す人から、入会依頼が来るようになることが理想です。我々の生業の基であるこの資格を持つものが集う団体ですから、そうありたいと強く思います。

年頭に少々高めの理想を並び立てました。今年1年で達成できるのは難しいかもしれませんが、理想に向かって努力する所存です。皆様のご協力をお願いします。

最後になりましたが、今年1年が皆様にとっていい1年であり、念願が叶いますことを祈念して、ご挨拶に代えたいと思います。本年もどうぞよろしく願いいたします。

年男・年女の抱負

無事名馬

四国中央支部 石川 潤二

2月で72歳になる。建築士になって47年、建物や付帯の仕事に携わってきた。設計は屋内で性分に合わない、現場が良いと50歳までは外ばかり、バブル真っ盛りに狂ったお金の動きが嫌になり、脱サラしてから30年。ビジョンはなかったけれど、事務所の登録だけはしておいた。その事務所に役に立ち、今日も地元企業等の設計をさせてもらっている。所員達には、元気な後ろ姿を見せて、職場が消える不安に襲われぬよう気配りしながら。

うさぎとカメ

四国中央支部 高橋 智洋

一昨年23年間勤めた会社を辞め、新たな道で修行を始めました。4回目の年男なので正直焦りを感じています。

転職を機に士会との付き合いが更に深くなり、色々見えてきたこともあります。それは元気な先輩方が多いことです。5回目、6回目の年男でも皆さんバイタリティーに溢れる方ばかりで、自分の将来の目標になりました。5回目の年男こそピョンピョンと跳ね回れるように、焦らずノロノロと自分を磨いて行こうと思います。

年男の抱負について

新居浜支部 岡田 陽英

今年、人生3度目の「年男」を迎えることになりました。この原稿を書くまで、年齢などあまり気にせず過ごしていましたが、現実には厳しいもので、少し体力的に衰えを感じております。

今年の目標は仕事面では新たな資格の習得、健康面では体重を落とす事です。資格の習得は浅く広く多くの知識を得る為に、1つでも多く取りたいと思っております。健康面では知らぬ間に増えてしまった体重・お腹を適正に戻し、うさぎのようにぴょんぴょんと身軽に、そして飛

躍していける、そんな素晴らしい年にしていきたいです。

お遍路

西条支部 篠原 健治

早いもので人生5回目の年男になります。昨年秋から妻と共に四国八十八カ所巡りを始めました。近くの霊場から始め、まだ県内しか回っていないのですが、愛媛に住んでいても初めて訪れるところが殆どです。寺院の独特な雰囲気の中、読経、参拝することで心が洗われる気がします。今年は休日に県外の霊場を旅行がてら巡り、寺院建築もゆっくり見学したいと思っております。

南無大師遍照金剛。

卯年生まれの72歳

今治支部 矢野 房義

新年あけましておめでとうございます。

今回の依頼を機に改めて人生を振り返ると、携帯電話そしてパソコンの普及とともに通信技術が急速に発展したことで、子供の頃少年マンガに描かれていた「夢」が、次から次へに実現しました。激しく社会が変化したことから、色々な面で教えや学びを超えることに直面することが多く、手探りで新しいことにチャレンジすることで、その時々を乗り越えてきたのが私の人生だったのかと感じています。

今後もチャレンジ精神を忘れず、元気で人生を楽しみたいと思っておりますので、どうぞよろしく願いいたします。

人とのつながりを大切に……

松山支部 入船 安紀

新年あけましておめでとうございます。

私は、建設会社で現場監督として、日々建物のメンテナンスや改修の現場管理をしています。日々の生活の中

で様々な業種の方と一緒に仕事をし、そして建築士会でも女性委員として活動しながら色々な方とも知り合えました。公私ともに充実した毎日を送っています。

これからも、人とのつながりを大切にしながら、仕事と家庭そして子育ての両立を頑張っていけたらと思っています。今年もよろしくお祈りします。

今後のこと

松山支部 二宮 廣史

高校の還暦の同級会からあつという間の12年でした。その同級生のほとんどが「毎日が日曜日、パートで週3日」と言っている中で、幸いまだフルタイムで働かせてもらっています。父が大工だったこともあります。ここにでもある職業を選んだのはある面で正解でした。

現在は、平日は設計事務所で設計の仕事、土日は香川県の三豊市（金毘羅さんの裏側）で義父の農園を継いで米と桃を作り、春先には筍を掘っています。トラクターも使えるようになりました。

今後は放置している蜜柑山を整理して、ひと山全部果樹園にしようと思っています。桃・栗3年、今年植える苗木に実が生る頃、そろそろリタイアする潮時かもしれません。

前向きな年男

松山支部 峰岡 秀和

人生4回目の年男となりました。前回から12年。長いようで短かった気がします。この間に家族も増えましたし、独立して大変ですが仕事の幅も増えました。健康でこれたことが何よりよかったです。私も「老化現象」というものを徐々に体験しています。悪くなったところをかばいながら生きている気がします。前向きに、次の12年へいろいろなことに挑戦しながら年を重ねたいと思います。

第2の人生のスタート

伊予支部 倉岡 義典

今年で還暦となる私は、若かりし頃から見ただけ60歳といえば、おじいさん、おばあさんと思いつつ、そのおじいさんになりました。40代はまだ1年過ぎるのが遅く感じましたが、50代は疾風のごとくであつという間に時間が過ぎていきました。建築現場で私と風貌が同じような複数の職人さんにお年を伺いますと、60から70歳代とのことで（私も含め出きるだけ2m以上の足場には上がらないでね）その人達から、あなたはまだ若い、後10年は精を出して働きなさいと言われました。現代は高寿命化し、私もこれから第2の人生を歩んでいこうと思います。

残りの人生

八幡浜支部 上田 浩二

あけましておめでとうございます。

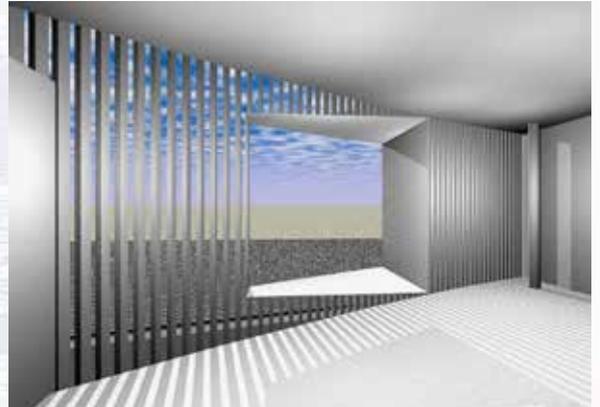
昨年5月に息子が生まれ、初めての育児に悪戦苦闘しながらも楽しんでいきます。早いもので今年36歳となり、そろそろ人生折り返しと思うと本当に短いものです。楽しいことをしている時間はさらに早く過ぎてしまいます。残りの人生で今日が一番若い日。限りある人生の時間を大切に使いたいと思います。

抱負

宇和島支部 酒井 久和

あけましておめでとうございます。4度目の年男になりました。年齢など気にせず過ごしていましたが、現実には厳しく体力的、精神的に衰えを感じ、昨年、禁煙、ダイエットを実行しました。禁煙は成功。ダイエットは皆様の判断にお任せします。今年の抱負として、改めて初心にもどり、丁寧な行動、丁寧な生活をしたいなと思います。

これからは、デジタル・アーキテクトが台頭してくる。僕が考えているデジタル・アーキテクトには2つの意味がある。1つは、デジタルな世界で建築を考えるアーキテクトのことで、もう1つは、デジタルそのものがアーキテクト化することだ。



▲HK.House プレゼン案

デジタルな世界で建築を考える。これには新旧の方法がある。パソコンの前でアプリケーションを操作して、画面上にデジタル空間をつかってゆく方法と、人がVR（仮想現実）の中に入って、五感を使ってデジタル空間をつかってゆく方法だ。前者は今までの延長線上の古い方法だが、これからは、後者の今までにない新しい方法が広がってゆくだろう。

VR設計は、きっとこんな感じだ。頭にはヘッドセット型のVRゴーグルをかぶり、両手には触覚デバイスのVRグローブをはめて、メタバースの敷地や実際の敷地をバーチャル化した空間に入り込む。そしてそこでウロウロ歩きながら考えながら、指を動かして壁をつくり窓を穿ち、柱を立てて梁を架けて床をつくる。廻りを見渡して、自分が思い描いた空間との差異があれば微調整してゆく。そして組み上がった躯体に仕上げ材をマッピングして、リアルな空間や建築が出来上がる。

メタバース建築であれば、そのまま完成となる。実際に建てる建築であれば、法的・構造的なチェックをアプリケーションがやってくれて、NGな部分にはアラートを出してくれる。建築士でなくとも建築基準法や構造計算をクリアできて、プロと素人の別け隔てが無くなり、建築の新しさや空間の質そのものが評価されるようになってゆく。ひょっとしたら、建築を学んでない人の方が豊かな発想をして新しい建築をつくり、設計者や建築家の概念が変わってゆくかもしれない。

クライアントや現場の人たちとの打ち合わせも変わってゆくだろう。ゴーグルをかぶり、クライアントと一緒にメタバースの空間に入り、歩き回りながら間取りの使い勝手を確認してもらったり、部屋の広さや天井の高さを実感してもらって、要望があればその場ですぐに修正してゆく。また、定例会議の現場打ち合わせの際に、メタバースの空間で職人さんと細部の収まりを原寸の立体で検討し、決まった内容がすぐに製作工場やクライアントにデータやメタバースとして届くことも可能になる。

デジタルがアーキテクト化する。これはAI（人工知能）が設計者となり建築家になるということだ。敷地、予算、間取りの要望と外観のイメージ等を伝えれば、AIが最適な建築を設計してくれる。確認申請もアプリで提出して、AI主事から電子認証された確認済証が配信されてくる。これからは、生身の人間ではなく、如何に優れたAI＝アルゴリズムをつくり得るのが重視されてゆくだろう。



▲HK.House プレゼン案

DIGITAL ARCHITECT

A I 設計者やA I 建築家は、きっとこんな感じだ。建築の歴史を全て知り、歴史上の建築を全て知り、法的制約を把握し、構造計算や設備設計も行って予算内の計画を何パターンも提案できる。要望を伝えればすぐに変更案を提示してくれる。オプションで建築のトレンドを予測したり、ひょっとしたら、モダニズムの次の時代の建築を考え生み出してくれるかもしれない。

A I 設計者やA I 建築家が台頭してゆくと、生身の人間である建築士や建築家は段々と不要になってゆく。チェスや将棋の世界では、人間はA I に敵わなくなっている。人間同士の戦いから、人間とA I の戦いへ、そして、A I とA I との戦いへと移り変わっている。建築の設計も少なからず同じような道を辿るだろう。Googleが検索に対して優れたアルゴリズムを追求し続けているように、何処かの企業が建築の設計に対して優れたアルゴリズム=A I を追求してゆくことは想像に難くない。

僕が独立して最初に手掛けた住宅は、当初のブレゼン案=夢から、竣工案=現実へと移り変わっていった。その過程から学ぶべきことは多く、僕にとってもクライアントにとっても建築にとっても大切なことが幾つもあった。しかしながら、デジタルがアーキテクト化した場合、それらの過程は全て合理化の影に埋もれてしまい、洗練された美しい上澄みしか目にすることが出来なくなってしまふ。曇りのないエリートな経歴のみによって支えられた建築は、果たして力強い魅力を持ちうるのだろうか？

HK.House 実施案 ▶



▲HK.House 実施案

デジタルな世界で建築を考えたり、デジタルがアーキテクト化してゆくと、建築はどう変わってゆくのか？ 良い方へ向かってゆくのか、悪い方へ向かってゆくのか。進化するのか、退化するのか。それは進んでみなければ分からない。進んだ後にその歴史を振り返り検証し、そこから次のより良き方向への一歩を見つけ出すしか手立てがないのが実情だ。

自動車の原動機が、ガソリンエンジンから電気モーターへと変わろうとしている。その間を繋ぐ調整役として、現在ハイブリッドシステムが重宝されている。建築の設計も、人間の手描きから、A I のデジタルデータへと変わろうとしている。その両岸への橋渡しとしてデジタル・アーキテクトが登場しつつある。デジタル・アーキテクトの前半は、人間が機械を使い、人間の能力を拡張してゆくパートだ。後半は、人間がつくった機械が、人間の能力を超えてゆくパートだ。

人間は、人間を超えたA I を必ず超える。もちろん処理能力の速さには敵わないが、A I には及びもつかない独創性や創造性を兼ね備えた発想の飛躍が人間にはある。A I が人間に追いつき人間を超えたと思っても、人間は全く違った方向へ全く違った考え方で、追いつかれた半歩だけ先に進む。そう、アキレスは永遠に亀に追いつけない。

執筆： 一級建築士 野本 健
監修：文化財・まちづくり委員会 委員 花岡 直樹

昭和時代の外湯

■昭和時代は道後温泉の増湯計画が本格的に始まった時代であり、現在の道後温泉の礎を築いた時代でもある。この増湯計画により、道後温泉の近隣にある旅館・ホテルに配湯できるようになり「内湯」が始まったのである。

昭和27年(1952)に「第8回国民体育大会」の開催に向け「道後温泉郷発展計画」を発表した。

■道後公会堂 昭和2年(1927)～昭和54年頃(1979)
昭和2年(1927)の「道後温泉増築計画」の第4期工事の1つとして建設された。当初は新湯という新たな公衆浴場が建設される予定であったが、ポンプアップの反対により、増湯が行えなかったため、結果的に公会堂が建設された。

道後公会堂のすぐ側のドンコ堀では大正2年(1913)に温泉の自然湧出が確認され、昭和2年(1927)に湯之町の町長に就任した岩崎一高が掘削を行い、昭和6年(1931)に温度は低いものの湧

「道後温泉郷発展計画」

増湯計画が成功した場合

西湯大改造工事、鷲の湯大改造工事、養生湯大改造工事、神の湯改修工事、神の湯2階浴室増設工事、

温泉療養館を新設、松湯復活工事、動物湯新設工事、旅館内湯工事、臨時大浴場建設工事等々

上記が道後温泉の昭和時代の計画であった。

出に成功した。

昭和12年(1937)に日中戦争があり、その傷病者の療養所として道後公会堂が使用された。その患者のために「澤の湯」という浴室を設け、その「ドンコ堀」の源泉を温めて使用していた。

ちなみにこの「澤の湯」の名前の由来は掘削当時の岩崎町長の名前にならって「岩崎湯」、雅号に由来した「風雨湯」、そして命名時の町長であった梅木勘三郎の発案の「澤の湯」という候補があり、結果「澤の湯」となった。



道後公会堂(澤の湯)▶
(提供：道後温泉事務所)

■新温泉 昭和23年(1948)～昭和54年(1979)

昭和23年(1948)に道後公園の北側に2階建ての「新温泉」を建設した。1階が大浴場で、2階が大広間の休憩室。浴槽の中央には「宝珠」を設置し、そこから溢れ出る方式とした。

町民は新しいもの好きで「鷲の湯」を利用していた人々は「新温泉」を利用するようになったと言われている。

昭和54年(1979)に「子規記念博物館」が建設されることになり撤去された。



▲新温泉 (提供：道後温泉事務所)

■しらさぎ湯 昭和25年(1950)～昭和43年(1968)

敗戦後、道後温泉の「霊の湯」、「神の湯」、「養生湯」を進駐軍のために提供することとなった。昭和24年(1949)に就任した道後温泉事務所の2代目所長、河野角太郎は、アメリカ軍のマーシャル司令官の元を訪れ、「霊の湯」を返還してもらう代わりに、昭和25年(1950)「新温泉」の東側に進駐軍将校用の「しらさぎ湯」を建設する交渉を行った。設計時には当時の進駐軍の司令官、レイ少佐と河野角太郎の案が取り入れられた。

外国人の利用が少なかったため、昭和26年(1951)に日本人が家族風呂として利用できるようになった。職員の服装は白いワイシャツに蝶ネクタイで外国人に対応した服装であった。

浴室は「虹」と「光」の2つがあり、浴槽の底がガラス張りでネオンが設置され、桜の花びらが浮かび上がる仕様になっていた。初めての家族風呂で人気となったため、昭和37年(1962)に応接室を改修して「扇」という浴室を設けた。

しらさぎ湯は昭和43年(1968)で営業を停止し、昭和54年(1979)に「子規記念博物館」が建設されることになり撤去された。



▲新温泉 (浴室) (提供：道後温泉事務所)



▲しらさぎ湯 (提供：道後温泉事務所)



▲しらさぎ湯 (浴室) (提供：道後温泉事務所)

道後温泉の外湯

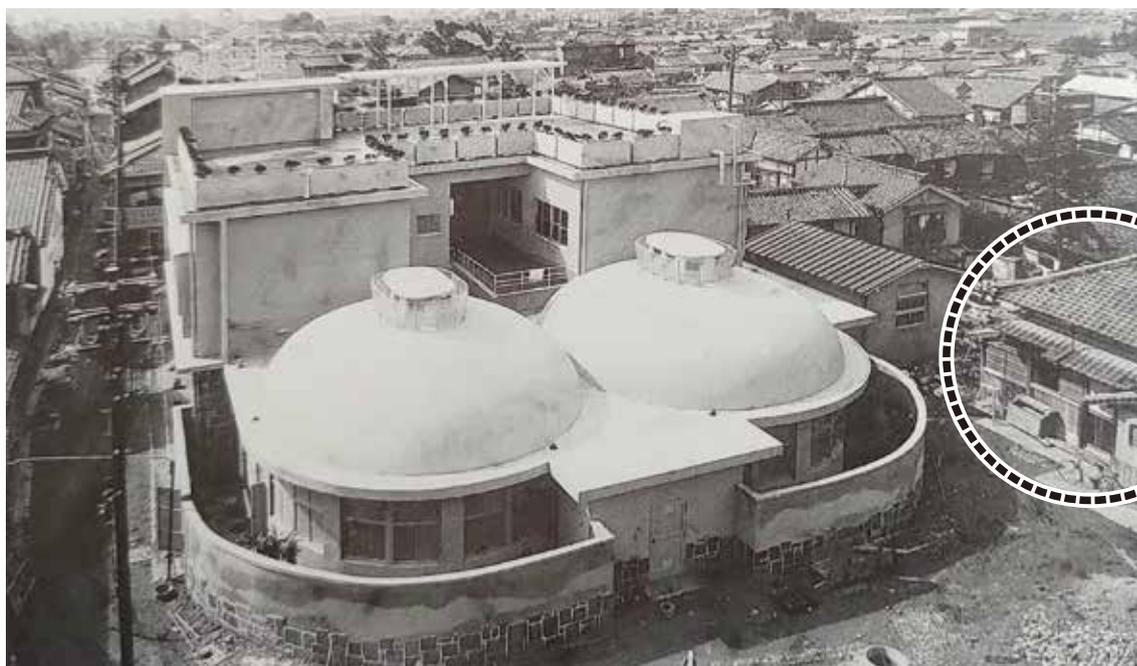
■鳩の湯 昭和26年(1951)~昭和37年(1962)

昭和26年頃(1951)は家族風呂が人気であり、その人気に目を付け「砂湯」を改築して高級家族風呂の「鳩の湯」を建設した。浴室は洋風の【花】・【鳥】、和風の【風】・【月】の4室があった。それぞれの浴室の壁のタイルには【花】は牡丹と椿、【鳥】には白鷺が水際に立ち、【風】は海岸に松を、【月】は岩の上から満月を描いていた。昭和27年(1952)に「椿の湯」の北側に移転した。

ちなみに「鳩の湯」の名称は一般から募集し、他の候補には「鳩湯」、「白玉湯」、「真砂湯」があった。



▲鳩の湯(浴室) (提供:道後温泉事務所)



▲鳩の湯(丸で囲んだ建物)。2つのドーム型の建物は椿の湯の浴室(建物の裏側) (提供:道後温泉事務所)

■ 椿の湯 昭和28年(1953)～昭和58年(1983)

昭和28年(1953)に「第8回国民体育大会」のために、「西湯」を改築して「椿の湯」を建設した。1階が大浴場で、2階に個室の家族風呂が11室あった。(11室の名称はソレイユ、クローバー、あやめ、すみれ、つばき、ふじ、らん、あじさい、水蓮、けし、つつじ) 大浴場の浴室のタイルの壁画は画家の古茂田公雄がデザインした。



▲ 椿の湯

■ いこいの家 昭和49年(1974)～

昭和49年(1974)に「椿の湯」の2階の浴室を福祉風呂「いこいの家」とした。その後、昭和59年(1984)に「椿の湯」が改築された際に、1階に移転し現在の姿となる。

湯釜は前身の「椿の湯」の姫だるまを模した卵型の湯釜を再利用して、利用者の身体と心を癒している。



椿の湯(浴室)▶
(提供：
道後温泉事務所)

■ 養生湯 昭和37年(1962)～昭和40年(1965)

昭和37年(1962)に「鳩の湯」を改築して、月受専用の浴場「養生湯」が建設された。



▲ いこいの家 (提供：道後温泉事務所)



▲ いこいの家(浴室) (提供：道後温泉事務所)

◀ 養生湯 (提供：道後温泉事務所)

道後温泉の外湯

■温泉センター 昭和39年(1964)～昭和43年(1968)

昭和39年(1964)ヘルスセンターが人気であり、冠山を削り湯神社を移転させて「温泉センター」を建設した。温水プールや大浴場、宴会用座敷、屋上には遊園地を備えた4階建ての施設であった。「温泉センター」が建設されたことで「鷲の湯」は撤去された。

「温泉センター」は経営が振るわず昭和44年(1969)に民間委託され、平成13年(2001)に撤去された。



▲温泉センター (提供：道後温泉事務所)

■椿の湯 昭和59年(1984)～

昭和59年(1984)に蔵屋敷風の鉄筋コンクリート造の建物として改築された。浴室には花崗岩の湯釜が設置され、子規記念博物館の初代館長である和田茂樹の揮毫により、正岡子規の俳句が刻印されている。エントランスには大三島出身の村上三島の書が飾られている。



▲椿の湯 (提供：道後温泉事務所)



▲椿の湯 (浴室) (提供：道後温泉事務所)

平成時代の外湯

■平成6年(1994)に道後温泉本館は重要文化財に登録された。平成27年(2015)に「道後温泉活性化計画」が発表され、これは平成31年(2019)より始まる道後温泉本館保存修理工事で観光客の減少を押さえるための計画であった。保存修理工事中でも道後温泉を訪れる観光客が温泉を楽しめる施設として「道後温泉別館 飛鳥乃湯泉」が建設された。



▲道後温泉別館 飛鳥乃湯泉 (浴室) (提供：道後温泉事務所)

■道後温泉別館 飛鳥乃湯泉

平成29年(2017)～

コンセプトは飛鳥時代の建築様式を取り入れた湯屋で内部は太古の道後をテーマに「愛媛の伝統工芸」を楽しむことができる。

大浴場の湯釜は「鷲の湯」の湯釜を再利用したものである。また道後温泉本館の皇室専用浴室である又新殿を再現した特別浴室も利用することもできる。



▲道後温泉別館 飛鳥乃湯泉 (提供：道後温泉事務所)

■あとがき

「外湯」が一番多かった時期は、「温泉センター」が建設される前の昭和37年頃だと考えられる。当時は「道後温泉本館」、「鷲の湯」、「新温泉」、「しらさぎ湯」、「椿の湯」、「鳩の湯」の6施設が存在した。松山市史料集第12巻より、入浴客数は昭和2年頃に138万人、昭和35年頃に363万人、そして平成26年頃には110万人となっている。昭和35年以降は旅館やホテルに「内湯」が整備され、家庭にお風呂が普及したことで「外湯」への需要が極端に減った。

時代は繰り返す。道後温泉の「外湯」の歴史についてまとめていると、そう考えるようになった。基本的に「道後温泉本館」というメインの建物の改築・修理を行うため、「松湯」や「西湯」、「椿の湯」そして現在の「道後温泉別館 飛鳥乃湯泉」の建設に繋がってくる。

「道後温泉本館」は愛媛県だけではなく、四国においても重要な建物である。しかし、その影では「道後温泉本館」を支えた多くの「外湯」があった

ことも忘れないでもらいたい。この記事を読んだ読者が、かつてはこの場所に「外湯」があったと思いを馳せ、道後の散策を楽しんでいただければ幸いと願い筆を置く。

■参考文献

「道後温泉 増補版」 「海南新聞」 「道後新聞」
「愛媛県紳士録」 「道後で暮らす語り部の記憶」
「道後物語」
「湯の町道後隅々案内」
「道後温泉の研究 重見辰馬」
「富田喜平は語る」
「富田狸通は語る」
「二神鷲泉と道後湯之町」
「松山市史料集」
*本書掲載の文章・図版の無断複製・転載を禁じます。

急坂とケーブルカーの街 サンフランシスコ

西予支部 松山 清

1 ケーブルカーとゴールデンゲートブリッジ



▲海辺から続くハイド線と沖合のアルカトラズ島

ケーブルカーが世界中からやって来る観光客を魅了するサンフランシスコ。およそ150年前に開業し、これまで大きなシステムが変わることもなく、急坂の多いこの町の市民の足となってきました。

サンフランシスコの代名詞、ゴールデンゲートブリッジのことは中学の英語教材・三省堂の"TOTAL English"で知り、そのインパクトが心に残っていて、今回の旅に繋がりました。サンフランシスコ湾の入口に位置し、多くの船舶がこの橋の下を通過してオークランドやベイエリアの中心サンノゼ方面へと向かいます。

サンフランシスコの街並みは、ゴールドラッシュから今日までの街の歴史と発展を伝えるものでした。市庁舎は日本の国会議事堂を思い出させるような荘厳な建築で、経済力が世界トップクラスだった証です。今でも西海岸の金融センターとして進化を続け、観光地としての評価も非常に高い都市であり、外国人のみならずアメリカ人からも訪れたい都市の上位にランクされています。



▲1937年開通のゴールデンゲートブリッジ

2 観光客に人気のケーブルカー



▲ 空港と市内を結ぶバート



▲ パウエル駅での方向転換



▲ 線路中央にあるケーブル



▲ 横向き座席間の運転台

コロナ禍のため2年半は海外に行くことが出来ずでしたが、22年夏頃から“水際対策緩和”というニュースが出始め、10月21日出発のANA特典航空券を入手、ホテル日航も予約しました。この時歴史的な円安のため両替ではかなり損をする状況で、手持ちのドルで済ませる範囲で行くことにします。節約のため空港からサンフランシスコ市内まではバートという電車で移動。ホテルやユニオンスクエアがSt.パウエル駅のすぐ近くで助かりました。

サンフランシスコの急坂を上るケーブルカーは開業当時のまま走っていて、その時と同じ機械式でした。坂道を上って行くケーブルカーの風景に憧れてやってきましたが、市民の足が1回\$8にはショック。

バートの地下駅から地上に出た所がケーブルカー始発のパウエル駅で、そこでは車両を方向転換していました。この町のケーブルカーは片運転台で前と後ろが決まっています、伊予鉄の路面電車のように前や後ろに自由に進むことはできず、One Way方式です。旋回も手動で、3人の係員が体重をかけてカ一杯押して回転させ、向きを変えます。

バイブリッジへと続く▶
坂道の風景



サンフランシスコのケーブルカーは現役かつ世界最古の手動運転の循環式ケーブルカーで、ケーブルはレールとレールの真ん中の路面下に設置されていて、約時速15kmで丘の上のモーターで巻き上げられています。巨大なモーターが設置してある所は、ケーブルカー博物館として公開されていました。この大きな車輪のような巻上機が大きな音を立てて常時回っており、これがケーブルカーの動力源です。

そのケーブルを運転席からチャックで掴んだり離したりして、ケーブルカーは進む仕組み。レバーを操作する運転士は重労働です。

真ん中の窓の後ろが細長い運転スペースで、運転士はその中に入って、長い鉄製のレバーを前に押したり引いたりして運転していました。



▲ 丘の上にある巻上機



▲ 運転台のある車両前側

ケーブルカー▶
博物館





③ サンフランシスコの街並み



▲市庁舎

サンフランシスコは1848年のゴールドラッシュから急激に人口が増え始め、それまでは千人程ほどの町が今では80万人となり、ベイエリア全体では1千万人の大都市を形成しています。ゴールドラッシュで成功した多くの企業家が、その財を元手に事業を展開した結果、銀行の他“リーバイス”や“THE North Face”などが誕生し、町は西海岸の中心として発展しました。そのような歴史に思いを馳せると、サンフランシスコは世界中からの移民によって成長してきた歴史があり、

様々な文化が溶け込んで魅力が造り上げられていることが理解できます。

ケーブルカーが走る丘ノブヒルの頂上にはグレース大聖堂があります。全米キリスト教監督派の中で3番目の規模を誇り、1849年に建立されました。外壁は石造りかと思いきや、コンクリート研ぎ出しなのは、ビックリ。ケーブルカーの出現により、この周辺が高級住宅街として発展してきました。



▲グレース教会正面



▲ノブヒル頂上の側面



▲トランスアメリカピラミッド

ノブヒルから坂を下った所にある、1972年完成・高さ260m48階建てのトランスアメリカピラミッド。当時はサンフランシスコで最も高い超高層ビルでトランスアメリカ・コーポレーションの本社でしたが、三角形という独特の形が市民に不評でした。現在は街のランドマークでもあり、目立っていました。そして今一番高いのは、ダウントウンに立つシーザー・ペリ設計のセールスフォースタワーで、326m61階建てです。

最近完成し売出中のタワーマンションはねじれたファサードで建築技術者泣かせに見えます。各部屋からの景色が違うことが売りのようですが、施工担当者は苦勞が多かったことでしょう。

サンフランシスコは坂道が多く、ノブヒル頂上付近のインターコンチネンタルホテル周辺は急坂に路上駐車が並び、麓にはホテル日航があります。頂上付近は急坂では、転がり落ちそうなくらい。そこにケーブルカーができて、この丘の上に高級ホテルなどができるようになりました。ケーブルカーが走る独特の都市景観が形成され、古い伝統

▼セールスフォースタワー（左）



基準階がない
タワーマンMIRA▼



▲ホテル日航
サンフランシスコ



▲ノブヒルの路上駐車

的な建築物も大切にされていました。伝統的な街並みを守ろうとするサンフランシスコの人々の意志が感じられます。

ホテル日航は竹中工務店・設計施工で、私が入社した年に完成。お客として行くとは思ってもみませんでした。リニューアルしたと聞き宿泊してみました。しかし、日本人向けはなくコストも悪く、もう少し経済的な選択をするべきだったと反省です。



4 周辺散歩とヨセミテ国立公園



▲アルカトラズ島

フィッシャーマンズワーフからはサンフランシスコ湾クルーズの観光船が出ていて、ゴールデンゲートブリッジを海から眺めることができました。アルカポネも入った刑務所が建つアルカトラズ島も経由、ピア39にはアシカが大集合して日光浴です。全部オスで7、8月には繁殖のため、メスを求めて外洋へ出かけていなくなるらしいです。



▲ゴールデンゲート海峡

連続するカーブの急坂ロンバートストリートにも是非行って見たかったので、ガイドさんに連れていってもらい、車が走る連続するカーブを徒歩で下ってみました。セグウェイで下る人もいて、それぞれに楽しんでいました。



▲ピア39に群がるアシカ



▲フィッシャーマンズワーフの入口



▲ツインピークス



▲ロンバートストリート



▲大岩壁エルキャピタン



▲トンネルツリー

ヨセミテ国立公園へは日帰りツアーに参加。大型バスは満員でしたが、日本人は自分一人。早朝にサンフランシスコを出発しました。

アメリカ西海岸エリアはなだらかな丘が延々と続き、ハイウェイで走ったその先にシエラネバダ山脈にあるヨセミテ国立公園があます。絶景ポイント・バレービューからみた千メートルを超える世界最大の花崗岩一枚岩の岩壁やメタセコイアの巨木が日本とはかけ離れた光景で、感動的でした。もっと滝が多いのかと想像していましたが、秋になると滝は見られなくなるものが多いそう。

5 コロナ禍とサンフランシスコの旅

ついに、ゴールデンゲートブリッジにやってきました！そして、ツインピークスからサンフランシスコを一望。事前の期待以上の体験でした。帰りの飛行機からゴールデンゲートブリッジが見送ってくれているのを発見しましたが、地図からでは橋の近くに住宅街が広がる地形だとは想像もつかなかったのです。

復路のANAは満席でしたが9割は外国人。日本のキャリアなのに日本人に見放されたかのように。サンフランシスコではマスクをしている人は殆ど見かけなかったのに、飛行機に乗った途端「鼻を隠してマスクを着用してください。」というアナウンスは違和感を感じました。国民性から来るのかもしれませんが、世界のスタンダードとは違った日本のコロナ対応は今後も継続するのだろうか、と少し不安に思いました。



▲帰国時に見えたゴールデンゲートブリッジ

全国大会「あきた大会」に参加して

会長 尾藤 淳一

コロナウィルスの影響で最後まで開催が危ぶまれていた秋田の全国大会が開催された。直前に待望の全国旅行支援も始まり、何か幸先が良いように感じながら出かけることとなった。秋田空港に昼ごろ到着し、リムジンバスで秋田駅に向かった。飛行機の中から感じていたが、バスの中にも建築士がちらほらいて、徐々に全国大会ムードが高まってきた。

10月13日。秋田駅に着いて、まずは腹ごしらえ。比内地鶏の親子丼をいただき、その旨さに舌鼓を打った。ウィキペディアによると「比内地鶏」は、「さつま地鶏」「名古屋コーチン」と並ぶ日本三大地鶏の一つ。原種比内地鶏は「成長が遅い」「体が小さい」「耐病性に劣る」などの理由で生産性が低く生産者に敬遠されていた。秋田県畜産試験場は1973年から比内地鶏を県の特産物とするため品種改良を行い、比内地鶏の特長を引き継ぎながら食味を維持しつつ生産性を向上させるために、比内地鶏の選抜優良種「秋田比内地鶏」のオスと、ロードアイランドレッド種のメスを選抜し諸問題を解消した比内地鶏を作出した。比内地鶏は雄の比内地鶏と雌のロードアイランドレッドを掛け合わせた一代雑種（F1）を品種として固定した品種であるらしい。親子丼で1200～1500円するから結構高級食材といえる。

それからホテルに向かい、チェックイン手続きをする地域クーポンがもらえたが、全て妻の財布へ。その後、そのクーポンを見る機会は訪れなかった。

午後3時から連合会理事・士会会長合同会議が秋田キャッスルホテルであり、住宅紛争処理支援セミナーを行うことや業務報酬基準について国交省主体で検討を進めている等、報告があった。また建築士会員だけが加入できる「けんぱい（業務に関する賠償責任保険）」の加入促進や木材利用促進協定の推進の案内があった。また、各種講習会の実施状況や建築士試験合格率の報告があったが、既存住宅状況調査制度を疑問視する意見や建築士製図試験のあり方について、見直す必要があるとの意見も出た。これらについては、所管官庁の国交省に伝えていくとの回答を得た。

会議後、千秋公園内にあるフレンチレストラン「千秋亭」で懇親会が開かれた。フレンチなのに日本酒の種類が豊富で、さすが秋田という感じだった。秋田は米どころと言うが、肴はどちらかという山の手が多いと思った。魚はハタハタが有名だが、時期的には11月に入ってかららしい。

14日、いよいよ全国大会本番。午前中に開催される地域実践活動発表は、中四国ブロック代表として松山支部の大内君が発表するので応援に。若干緊張気味だった

が、堂々とした発表ぶりで、これはいけたかなと思っていたら、予想通り最優秀賞。ただ緊張か体調不良が授賞式後に救急搬送される事態になって、会場は騒然とした。何とか式典の授賞式には間に合ったが、あまり調子が良くなさそう。後日、事務局には元気そうな姿を見せてくれたそうなので一安心。命あっての物種なので、体調管理にはみなさん気を付けましょう。まずは最優秀賞という栄誉に拍手。



▲ 式典風景

また、式典において花岡直樹副会長、小原文子さん、松平定真さんが連合会長表彰を受賞され、前事務局長の大西勝秀さんが70周年記念全国大会永年勤続職員表彰を受賞された。今回表彰された方全て松山支部の方。他支部の方も松山に負けない活動をして、愛媛県の全体的がレベルアップしていければいいと思う。

15日は、レンタカーを借りて角館の武家屋敷を見学して、八幡平へ向かったのだが、途中ガスが出てきたので、予定を変更して玉川温泉を見学した。湯煙と硫黄の匂いで霞んでいたけど、紅葉は見ごろで、東北の鮮やかさは四国とは違った。玉川温泉で、前日交流会で言葉を交わした新潟の田中会長にばったり出会った。何か縁があるのかも知れない。今回は3泊して充分秋田を満喫した。来年の全国大会は静岡。今から楽しみである。



▲ 連合会会長表彰者（左2人目から）松平さん、花岡さん、小原さん、大西さん

青年委員会セッション地域実践 活動発表

青年委員 大内 雄志

日時：令和4年10月14日(金) 10:00~12:00
会場：あきた芸術劇場ミルハス

10月14日に開催された、「第64回 建築士会全国大会あきた大会」に参加しました。今回は地域実践活動発表会に中四国代表として発表する事となり、6月の中四国ブロック大会で発表した“「建築巡礼」inまつやま”を全国の場で披露することができました。

中四国ブロック大会で最優秀賞をいただき、全国大会への切符を手にした6月から、早くも2ヶ月半が経った8月。全国大会では「愛媛県松山市」のことを知らない方もたくさんいるので、全国どの地域の方が発表を聞いてもこの「建築巡礼」のイベントがわかるよう内容を作り直す必要がありました。なのに…優勝の余韻に浸ったままズルズルと時間だけが過ぎて、気が付けば8月お盆…(汗。急遽パートナーとして発表補助をしてくれた清水さんを筆頭に、和田さん、白石さん、西森さんにお声をかけ、中四国ブロック大会優勝チームを再結成しました。そしてそこから急ピッチで全国大会版の魅力あふれる発表資料をみんなで作り上げました。

その資料を基に練習に明け暮れた9月、そしてさらに時は流れて10月、気が付けば秋田…。瞬く間に時間は過ぎ、発表前日の13日に事前リハーサルのため会場見学した際には、思っていた以上に立派で大きなステージに圧倒され、覚えたはずの台本が思い出せなくなる出来事もあり、不安にとり憑かれ、当日の朝ギリギリまでホテルの部屋で清水さんとリハーサルを重ねました。



▲発表前、応援団と記念撮影

本番は、中四国ブロック大会で優勝した時と同じく、花岡支部長が道後温泉本館の方からお借りしていただいた“勝負服”の「法被」と「浴衣」で発表し、見事全国で最優秀賞をいただくことができました。本番は今までやってきた練習やリハーサルの中でも最高の発表ができたと確信しています。それはたくさんの応援団が同じ道後温泉の法被を着て最前列で最高のエールを送ってくれたからです。たくさん勇気をいただきました。本当にありがとうございました。



▲チーム愛媛の応援団



▲表彰式の様子

ただ、最優秀賞の発表後に腹痛により体調を崩し、二度も救急車に運ばれることとなり、皆様には大変ご迷惑をおかけしましたことをこの場をお借りして改めてお詫びいたします。大変申し訳ございませんでした。特に病院に付き添っていただきほとんど秋田観光もできなかった井上さんには頭も上がりません…申し訳ありません。

また体調を崩した際に、応急処置してくださった他県の建築士会の方をはじめ、秋田士会の皆さん、そしてたくさんの方に温かいお声をかけていただきました。感謝お礼申し上げます。



▲発表の様子

そんなうれしい思いと苦い思いが交じり合った、何とも言えない複雑な感情が残った全国大会。現在体調も戻り、皆様からも腹痛ネタでイジられる日々が続いていますが、ほんとに元気になってよかったな～ってホッとしています。

最後になりますが、全国大会の各地の発表は非常に刺激になりました。地域一体となって活動しているイベントや子供たちをターゲットとしている内容、さまざまな多岐にわたるものがありました。愛媛県も全国に負けず、これからもふるさと愛媛に貢献する活動を積み重ねていきたいと思います。そしてまたあの場で次の世代が優勝できるよう、青年の活動に携わっていきたいと考えています。応援していただいた皆様、本当にありがとうございました。



▲みんなで記念撮影

以降、総務・企画委員長の井上竜治さん、発表補助をしてくれた清水翔太さんからコメントをいただきました！

発表補助 清水 翔太

今回、地域実践活動の発表補助を務めさせて頂いた清水です。私にとって建築士会全国大会に参加するのは初めてのことでした。各県建築士が未来を担う子供たちや、地域の人に対して建築を通じ活動している姿に大変刺激を受けました。大会に携わることができて良かったです。大内さん、発表本当にお疲れ様でした。大会に向けて準備を一緒に進めていく中できっと最優秀賞を受賞できる、と心の中で思っていました。大会当日いろいろありましたが、一緒に愛媛に無事帰ることができて良かったです。最後に建築士大会に携わって頂いた皆様本当にありがとうございました。



▲なまはげのお出迎え

総務企画委員長 井上 竜治 (最後に一言)

久しぶりのリアルでの全国大会が秋田で開催され、参加できたことうれしく思います。また、大内君、清水君、プレッシャーの中、見事！全国一位、最優秀賞おめでとうございます。これからも若手建築士が活躍することで、益々愛媛県建築士会が発展していくことを期待しています。(追伸：秋田の病院は詳しくなりました！(笑))

おはぎ茶屋になった 登録有形文化財建物「旧鈴木邸」

文化財・まちづくり委員会 景観部会 中山 百合子

ヘリテージマネージャーの日本語訳を「歴史的建造物保全活用資格者」と教わりました。建物を保全するのは建築の分野であるとして、では、活用は誰がどうするのであろうかと興味を覚えたものです。というのも、有形文化財に指定されたもののあまり人が訪れることのない静かな建物や、補修の甲斐なく衰えていく建物などを見る機会があり、活用という部分の難しさを感じていたからです。

活用という視点で建物を見ているうちに、いくつかの有形文化財建物の活用のしかたが面白いと感じました。その一つが、松山市三津浜にある旧鈴木邸です。



旧鈴木邸の現在のオーナーは、岡崎さんという女性です。鈴木家とは血縁関係はありません。旧鈴木邸の持ち主が亡くなり、引き継いだ親戚は管理が大変で、この家を壊してしまうかもしれないという噂を聞いた岡崎さんと古民家好きの仲間たちは「使わせてください」と申し出たそうです。そして2年後、岡崎さんはこの建物を守るために、全くそのつもりはなかったのに、オーナーになってしまったのです。

岡崎さんが惚れ込んだその建物についてご紹介しましょう。建築は明治36年くらいとされていますが、はっきりとはわからないとのこと。元はお米屋さんでしたが第二次世界大戦中に廃業。米屋の息子は三津浜煉瓦工場に入社し、のちに社長にまでのぼりつめました。現在、旧鈴木邸でひときわ目立つ陶器製の巨大唐草模様の欄間は、この煉瓦工場で作られたものだそうです。



ただ、岡崎さんがこの建物を引き継いだときは、

建物は経年によるけっこうな傷みがありました。建物を購入したことで手持資金は消えローンが残っている状態で、さらにその補修費用を捻出するのは大変です。「松山市美しい街並みと賑わい創出事業補助金」に応募し、公益性、継続性、発展性、妥当性、実現性等の視点からの審査を経て、無事補助金を手にすることができたそうです。



といっても、大工工事や左官工事など本職に依頼すると補助金はどんどんと無くなります。岡崎さんは、解体や柿渋塗装といった工事の一部を自分や仲間たちですることによって経費を切り詰め、建物をよみがえらせた。

さて、古民家は日常的に手を入れていないといけないという宿命にあります。未来にわたる補修資金調達のため、そして何よりも旧鈴木邸を大勢の人に見てもらうために何をすればよいのか、岡崎さんは色々な人に相談しました。そしてたどりついたのは、元お米屋さんだったということから「おはぎ茶屋」だったのです。

2021年秋、NHKの朝ドラ「カムカムエブリバディ」で餡子の人気上昇、そして三津浜エリアは新規店オープンが相次ぎマスコミにも注目されていました。その追い風を受けるように、2022年旧鈴木邸茶屋はオープンし、多くの人に愛されるおはぎ茶屋になっていきました。



「みんな、おはぎ食べにきて」とは、別れ際の岡崎さんの言葉です。古民家好き、餡子好きな皆様、どうぞ旧鈴木邸茶屋へ美味しいおはぎを食べにしてください。

令和4年度 中四国ブロック 若手建築志(士)交流会in香川報告

青年委員 政石 信行

開催日：令和4年9月24日(土)・25日(日)

開催場所：高松市他 香川県内各地

参加者：2名

令和4年度中四国ブロック若手建築志(士)交流会in香川に参加してまいりました。

県内もそうですが、中四国や全国のイベントとなると、まずは普段中々行かない場所での食事が楽しい。という個人的な欲に忠実に、道中、宇多津にて途中下車。

開催時、まだ四国に一軒しか存在していないバーガーキングへ。聞いてはいたものの、普段口にする某チェーン店とはサイズが違う。デカイ。肉が肉々しい。そして、そこそこ高い。しかし、この美味しさは好きな人にとってはたまらないでしょう。

12月中旬には、松山衣山に愛媛初出店予定とのこと。興味がわいた皆様は是非。



▲バーガーキングでランチ

さて、本題の交流会ですが、今回は全体で3コース。Aコースは、さぬき市にてイルカふれあい体験。Bコースは屋島山上散策。Cコースは丸亀城散策。その後、高松市内にて懇親会の流れ。

当初、Bコース屋島山上散策(定員20名)に応募したものの、定員オーバーで別コースの予定。仕方が無いので、丸亀にて「一鶴」か、未知のさぬき市にて新たな発見を探す覚悟を模索していたところ、香川県建築士会の運営の方々の気遣いで定員を倍にして頂き、無事屋島山上散策に参加しました。

屋島人気の理由は、やはり「やしまーる(設計SUO 周防貴之氏:写真)」。これにつきるかと。今年の8月

オープン。波打つ円形の建物で、施工の事を考えると…(終始無言)となる建物。

とはいえ、屋島の高台からの景色の中、子供たちが走り回る良い建物でした。



▲やしまーるにて



▲やしまーる模型

夕方からは予定通り高松市内へ移動し、懇親会へ。しばらくぶりの大人数の宴会。青年委員とはいえ、まだまだ県外の知り合いも少ない中寂しく不安でしたが、お酒の力と他県の方、開催県香川の方々の温かいおもてなしで、存分に楽しく過ごさせて頂きました。

日程の都合上(二日酔いの都合上?)、25日の「うどん打ち体験」は参加できませんでしたが、後日参加者に聞いたところ、自分で作るうどんは楽しかったとのこと。

本交流会は「自分が若手とっていれば」年齢に関係なく参加OK。来年は島根にて開催予定。そして、再来年は愛媛開催予定となっております。多くの会員の方の、次回参加、次々回のご協力をよろしくお願い致します。

ちなみに帰りの道中、肉汁日本一をうたう、坂出のハンバーグ専門店「ウェリントン」にてハンバーグを頂きましたことも、あわせてご報告致します。

青年委員会主催 「支部対抗ソフトバレーボール大会」

優勝報告

松山支部 松平 定真

開催日：令和4年11月19日（土）

会場：内子町スポーツセンター 参加者：74人

3年ぶりとなる支部対抗ソフトバレー大会に参加しました。

松山支部からは2チームの参加となり、安藤さん率いる松山Aチーム、そして僕の所属する松山Bチームで試合に挑みました。

コロナの影響からか、各支部から合計9チームと今までより少し少ないチーム数となりましたが、事務所協会さんも参加していただき、有意義な時間が過ごせたと思っています。

今大会では、松山Aチーム6位、松山Bチーム優勝という結果となり、ここで優勝のコメントを書かせて頂くことになりました。

念願の初優勝（僕の中です。過去には松山支部も優勝経験あるみたいですが）ということで、日頃の練習の成果、またチームメイトとの連携の良さが発揮されたんじゃないかと思えます。松山Bチームのメンバーのみなさま、ありがとうございました。

大会当日は、緊張することもなく、実力が出せたと思います。相変わらずのくじ運の悪さというか、9チーム3ブロックでの試合でしたが、松山Aチームも同じブロックになってしまいました。前日もそんな感じだったような気がします。

試合の内容はというと、優勝のコメントを書くとは思っていませんでしたので、詳細は覚えていませんが、各支部それぞれに個性があり、笑いがあり、上手い下手もあり、充実した時間が過ごせたと思っています。ただ、松山支部に限ったことではありませんが、なんとなく年齢層が高く（笑）なっているような気がしました。ソフトバレーは比較的年齢に関係なく楽しめるスポーツだとは思いますが、もう少し若手の会員の人が出てきてくれたらなあ……と思いました。松山支部では、毎週火曜日と金曜日の夜に会員が所属しているバレーチームの練習に参加させてもらっています。興味のある方は、若い人に限らず、ぜひ参加してみてください。

当日の打ち上げは、コロナが増加していることもあり、参加者は少なかったのですが、今までにない「優勝」という言葉のもと、バレー談義をして、来年の2連覇に向けて、美味しいお酒を堪能しました。

最後になりますが、今大会を開催するために、いろいろ準備等してくださった、和田青年委員長をはじめとする青年委員のみなさま、特に、めっちゃ動いていた、青年委員の毛利さん（あの速記は憧れすら感じます）、ありがとうございました。

また、最初から最後まで、応援をしてくださった、尾藤会長、花岡副会長、大西前事務局長、事務局員のみなさまに感謝いたします。

来年も参加できるように日々の練習を欠かさずしていき、2連覇に向けて頑張りたいと思います。各支部のみなさま、次回もお手柔らかにお願いします。



優勝 松山Bチーム



準優勝 四国中央支部

3位 西条支部



4位 伊予支部



5位 事務所協会



優勝記念撮影



会長賞 建築士事務所協会チーム

青年委員会主催 「支部対抗ソフトバレーボール大会」

9位報告

今治支部 白石 耕平

支部対抗ソフトバレーボール大会に参加しました。この世に生を享けて46年、ソフトバレーボールはやった事ありません。バレーボールだと高校のクラスマッチでやったくらいですので約30年ぶりということになります。

自分の知る限りですが、今で歴代青年委員を務めた方は参加してきたみたいでした。近年は今治支部でチームを作るには至らず、他の支部との合同チームで参加していたので、今回は今治支部でチームを作り参加するというのが大きな目標でした。申し込み期限の数日前に人数を確保できたことで既に達成感がありました。今治支部チームは作れたものの、一度も集まって練習することなく大会当日を迎えることになりました。

集合場所で今治支部メンバーの中に初めて会う若者がいました。身長187cm、手足の長い21歳の元高校球児、ポジションはピッチャーで変化球はナックルボール以外は何でも投げられるという器用者。「何かいけそう（勝てそう）」という変な自信が湧いておりました。

会場に到着し開会式、対戦くじ引きをして、まずは予選リーグ。

事務所協会チームさんと対戦し〔18-24〕で惜敗。

四国中央支部さんと対戦し〔2-42〕で惨敗。

40点差という記録的大敗を喫し、戦意喪失状態で臨んだ順位決定リーグは、西予支部さんと対戦し〔12-33〕のダブルスコア以上で敗戦。

宇和島支部さんと対戦し〔15-28〕防戦一方のまま敗戦。結局一度も勝てないままダントツの最下位で大会を終えることになりました。正直、もう少し善戦できると思っておりましたが、現実はかなり厳しかったです。

試合以外にも審判も経験。しかも主審。試合開始のホイッスルが弱く失笑を買うなど、色々難しかったです。

全敗し悔しい気持ちは30分後くらいまでで、振り返れば久しぶりに会う方々と近況報告をしたり、楽しい時間を過ごせることができたので、参加して良かったと思っています。

今治に帰り、支部のメンバーと「反省会」という名の懇親会。次は練習してから参加しようという当たり前の結論で一致。

建築士会に所属していても普段はあまり関わりのない間柄の方もいて、それぞれの建築に対する考えや取り組み、苦労話などを聞くことができ有意義に過ごすことができました。僕が建築士会に入会して17年目ですが、近年は「忙しい」を理由に士会の活動に参加できていませんでした。今回のソフトバレーボール大会は自分の考えを見直す機会になりそうです。最後に会場の手配など大会運営に尽力された毛利さんをはじめとする南予の方々、事務局の皆様、ありがとうございました。



6位 松山Aチーム

7位 宇和島支部



8位 西予支部



9位 今治支部



開会式



選手宣誓



表彰式

女性委員会主催 「宇和島史跡めぐりツアー」

女性委員 田中 陽子

日 時：令和4年11月3日
場 所：宇和島市内
参加人数：14名

11月3日、歴史にタイムスリップする「宇和島史跡めぐりツアー」を開催しました。南予エリアでの見学会にもかかわらず、中予や東予から合わせて14名の方々にご参加頂きました。

当日は、すっかりとした青空の良い天気となり、秋の日差しが眩しいほどでした。酒井純孝先生が「11月3日は必ず晴れる！」と予言されていて、本当にそうだった！と驚きでした(笑)。



お城山への登り口にある上り立ち門と、標高約80メートルのお城山の頂上に堂々とそびえ立つ「宇和島城」。現存十二天守のひとつ。築400年も経っているのですから、宇和島城はどれほどの時代の流れを見て来たのかと考えるだけで、歴史のロマンを感じます。



幕府から追われ宇和島に逃亡してきた蘭学者「高野長英の居住地跡」。普段は通り過ぎてしまいそうな道沿いにあります。窓を開けた先は辰野川が流れており、追っ手が来たときにすぐに脱走できるように、とのことだったようです。



「木屋旅館」。明治44年に創業し平成7年まで営業し

ていた旅籠屋。かつては司馬遼太郎も宿泊したことがあるそう。平成24年に一組限定の宿泊宿に生まれ変わりました。2階の床が一部透明になっていて1階を覗けるようになっていたりして、古きを残しつつユーモアのある改修がされています。「建築士会で予約してみんなで宿泊するのもいいね！」という話も出ました。



お昼ご飯は天赦園の芝生の上でお弁当を広げて一休み。散策コースは約3キロほどでしたが、お城山の登り下りの石段が運動不足の足に響きました(笑)。トンビにお弁当を狙われるというアクシデントがあり、おかずを守りながらの昼食になってしまいました。参加者の皆さんには怖い思いをさせてしまったかも。

昼食後は天赦園内にある「春雨亭」についても酒井先生から改修時の苦労話や、改修で分かったことなど貴重なお話を頂きました。



▲参加者全員で記念撮影

今回の見学には会員さんの3歳の姪っ子さんも参加してくれました。行く道に落ちていりどんぐりを拾いながら、大人でも大変なお城山の山道も最後まで元気に歩いてくれました。お陰でこちらでも楽しく歩くことができました。

今回の見学会では、宇和島に住んでいるにもかかわらず改めて発見することも沢山あり、それらを皆さんと一緒に共有出来たことを嬉しく思います。愛媛の端から端へと遠くから参加して頂いた皆さん本当にありがとうございました。

三津浜を散策しながら親睦を深めよう！

松山支部 南地区 高須賀 範昌

愛媛県における新型コロナウイルスの感染状況も落ちついたこともあり、令和4年10月23日(日)にマスクを着用し感染対策を設けて「三津浜を散策しながら親睦を深めよう！」のイベントを実施しました。参加者は、会員3名、一般3名の計6名でした。

伊予鉄三津駅をスタートし、愛媛県建築士会女性委員会が作成していた「三津浜MAP」のルートで散策や見学を実施しました。旧濱田医院や旧鈴木邸では、内部の見学も行いました。最後は、夕日を望みながらの「三津の渡し船」に乗船し、伊予鉄港山駅にてGOALしました。天気の良い秋空に恵まれ、風情ある三津の街並みを気持ちよく散策できました。

参加者の感想もいただきました。

「旧鈴木邸の女将さんの貴重な話を聞いて、大変勉強になりました。散策を通して、建物を保存していくことの難しさ、きっかけ、いろいろと考えさせられました。松山市のまちづくりの取り組みの話も聞くことができたり、



▲「三津浜MAP」のルート散策参加のみなさん

少人数だからこそ楽しく学べました。参加してとてもよかったです」。

準備に携わっていただいた方々、参加していただいた方々のおかげで無事、イベントを終えることができました。感謝申し上げます。ありがとうございました。

会社が休みの日に限りますが、今後もイベントを企画していきたいと思えます。

伊予支部活動報告及び計画について

伊予支部 支部長 渡辺 大記

令和4年度の支部総会において、年度事業計画の議決を頂き、支部事業に取り組んでいます。年度最初の支部活動として、伊予彩祭に参加をして建築士会のアピールを予定していましたが、コロナ第7波の関係で中止となり残念でした。

今後の活動予定として、中山町、松前町、砥部町、双海町、伊予市で清掃活動を行い、建築士会のアピールを行う予定です。

また伊予市福祉課と共同で、家具転倒防止講習会を市民を対象に開催し、市民で今後起きるであろう南海、東南海地震に対して家庭内での安全、安心に役立てるよう取り組みたいと考えております。

2023年3月には、伊予市の五色姫復活祭に参加をして建築士会のアピールを行い、一般の方に建築士会を知ってもらい、今後の建築士活動を活発にしたいと考えております。

建築士会活動を振り返って

松山支部 花岡 直樹

遂に回ってきた、という感じです。別に逃げ回っていたわけではありませんが…。これまでのことを少し振り返ってみたいと思います。

私は、昭和58年に8月に、建築士会では副会長まで務められた河合勤先生の事務所に入社しました。前会長の赤根良忠さんが先輩としていらっしゃいました。以後、40年にわたっていじめ…。もとい、かわいがっていただいています。建築士会では一番長いお付き合いです。

建築士会への入会は、けっこう不純な動機です。入社してすぐに一級建築士の学科に合格したのがわかり、河合先生が講師を務める阿波池田での設計製図の講習会に連れて行ってもらうことになったのですが、「建築士会に入ると受講料が安くなる」ということで入った次第です。河合先生は陸軍士官学校ご出身の職業軍人で、第二次世界大戦にも陸軍中尉として参戦された方です。昭和の終わりを感じたのか、63年の秋に、残りの人生を松山市の古建築のことにささげたいので今年いっぱい現業を引退する、とおっしゃったのです。事務所の業務は先輩の赤根さんが独立して引き継ぎ、当時まだまだひよこだった私は、吉本宏先生の事務所に移籍しました。その後も河合先生に古建築の調査や修理の設計の依頼があったものを私がお手伝いする、という条件を認めていただいていたの移籍でした。今考えると、ここが私にとって一番大きなターニングポイントではなかったかと思えます。

その後、平成12年に独立しましたが、その年から始まった道後温泉本館の本格的な総合診断に参加させていただき、元請の文化財建造物保存技術協会にお願いしていただき、今行われている保存修理工事にも参画させていただいています。また、亡くなった後でご遺族から譲り受けた建築関係の資料の中からコピーを見つけたのですが、松山市の文化財保護審議委員にも推薦いただいていた。本当に感謝です。



▲研修旅行の船中にて、左が河合先生、右が犬伏先生

建築士会では、昭和60年に河合先生が初代委員長として立ち上げた、建築士会では全国的にも珍しい「文化財調査委員会」の委員になりました。それから37年間、浮気もせずずっと委員を続けています。青年委員会や他の委員会に属さず協力できなかったことは、とても申し訳なく思っています。その後、まちづくり委員会と合体した、文化財・まちづくり委員会の委員長を、平成20年から12年間務めさせていただきました。多くの功績を残された初代委員長の河合勤先生や二代目の犬伏武彦先生の後任ということで、プレッシャーはとても大きなものでした。「文化財を生かしたまちづくり」を目標に

掲げ、委員の皆さんのお力を借りながら頑張りました。長年副委員長として助けてくださった久保孝さん、若松一心さん、若くして委員長を引き継いでいただいた峰岡秀和さんには特に感謝しています。

平成28年度からは、「歴史的建造物の保全活用に係る専門家（ヘリテージマネージャー）養成講座」を3年間にわたって開催し、約70名の修了者を輩出しました。講座の主催者は各都道府県によって様々ですが、愛媛県では建築士会単独で開催することとなり、文化財・まちづくり委員会が中心となって計画、運営を進めました。今年度になって、やっとという感じではありますが、これまた建築士会単独で「愛媛県建築士会ヘリテージマネージャー協議会」を立ち上げ、正式なヘリテージマネージャーとして登録する作業を行っています。現在40名の方を登録しています。



▲愛媛の古建築を訪ねての編集作業

また、これまでの委員会の活動をまとめた「愛媛の古建築を訪ねて～文化財・まちづくり委員会33年の活動記録」を平成30年に出版できたことも、とても思い出に残ることです。編集委員には先ほどの若松さん、峰岡さんの他、長年女性委員としてご協力いただいた西浦郁子さんにも加わっていただきました。おかげで、令和元年6月には都市計画法・建築基準法制定100周年記念式典で感謝状をいただき、また令和2年度には、第35回愛媛出版文化賞もいただくことができました。編集委員だけではなく、これまでの活動に参加していただいたすべての委員の方にお礼を申し上げたいと思います。令和2年度からは松山支部の支部長を、そして今年度からは県の副会長を務めさせていただいていますが、委員として残り、愛媛の文化財・まちづくりについて頑張りたいと思います。

おかげさまで娘も建築士会の一員として、皆さんにかわいがっていただいています。今のところは「あの女性会員は誰かな？……ああ、彼女は花岡副会長の娘の晶子さんだよ」という感じだと思いますが、数年たって「あのおじさん誰だったっけ、あのちょっと頭の薄い…あれは花岡晶子さんのお父さんじゃがね」などと言われないように、これまで会員の方から数多くいただいたものに対するお礼と思って、あと少し頑張りたいと思います。でも本当は、私たちが霞むくらい若い人たちが頑張ってくれ、活動していただき、愛媛県建築士会を引っ張って行ってくれることが、一番の理想と考えています。

このバトンは、八幡浜支部の原政治さんにお渡ししたいと思います。よろしくお願ひします。

わたしのけんちくの輪

宇和島支部 青年部長 櫻井 一博

宇和島支部の兵頭友義さんよりバトンを受取りました、宇和島支部の櫻井です。けんちくの輪をよろしくと先輩から言われ、当然お断りできず、今回この機会をいただきました。

わたしは今、(株)二宮工務店で工事監理や、施工図、たまに営業などをさせていただいております。小さいころから親父が自営大工だったので、建築、主に木造住宅ですが、自宅の隣にある加工場で従業員さんと墨付けを行ったり、刻んだりという姿を見ていました。実際に建て方の作業なども一緒に行き手伝ったりもしました。そんな親父の姿に憧れて、自分も大工になりたいと高校は建築科に進学しましたが、体のこともあり親父は大工を辞めたのです。そんな中、就職するか、進学するかの時に、大学に行けるのであれば行きなさいと背中を押され、親父と大工を一緒にする夢がなくなったわたしは、何となく建築工学科に進学することとなりました。

大学4年間全く建築に対する意欲もなく、服飾関係の就職活動を行っていましたが、就職活動も終盤の時に、やっぱり建築の仕事がしたいと、ふと思い、地元の設計事務所を親父の知り合いの方(宇和島支部の先輩)に紹介していただき、就職しました。ここで今でも忘れられない強烈な言葉を設計事務所社長からいただきました。「わたしたち建築士が、まあいいかと思いつ仕事を進めると、多くの人々の命を奪うことになる、わたしたちの仕事は大切な仕事だよ」。当時、わたしの考える設計の仕事は、デザインばかりで、こんな感じ！を形にしていこうものと思っておりましたが、この言葉を胸に色々な経験をさせていただき、約5年間、設計事務所でお世話になりました。それから現在の職場で仕事をするようになったのですが、親父から、親父の知り合いの宇和島支部の先輩、設計事務所社長、弊社会長と、色々なけんちくの輪で、今のわたしがあります。



▲ 2022年度 中学生職場体験

話は少し変わり、弊社では10年以上、中学生の職場体験や高校生のインターンシップをさせていただいております。業務の中での受け入れなので、大変な時もあり

ますが、会社一丸となって取り組んでいる事業です。わたしがこの事業に関わって、いつも感じていることは、この題名にした「わたしのけんちくの輪」です。わたしが今あるのは、わたしが思ってそうして来たことだけではなく、けんちくの輪があって今があるので、中学生、高校生に対し、職場体験やインターンシップで、けんちくの輪へ繋がる何かがあるのではないかと、わたしなりに一生懸命行っています。

大学時代、通っていた高校へ教育実習をさせていただく機会がありました。ここで、先生方と一緒に実習させていただきましたが、これもまた、わたしのけんちくの輪になっており、今の仕事でも大変お世話になっております。わたしはこの時の教育実習で、生徒に建築を教えるのではなく、自分自身がどのくらい出来るか一生懸命に建築の仕事をしてみたいと思ったんだと、この原稿を書いていて、あっ、この教育実習の時に、やっぱり建築の仕事がしたいと思ったのかも、と。

そんなこんなで今のわたしですが、宇和島支部の青年部長をしるということ、微力ながら頑張っています。そうした中で、会社やわたしだけではない、けんちくの輪も出来ているように思います。先日、いしづちの活動報告でもご報告させていただきましたが、建築士の日事業でも多くの子どもたちに参加してもらって、またひとつけんちくの輪が出来たなと思っていたところです。今年のインターンシップに、建築士の日事業に参加してくれた生徒が来てくれたり(^^)

この原稿依頼を受けた時、次回「けんちくの輪」の寄稿者のお名前とメールアドレスと一緒にご報告くださいますようお願いいたします。と、これまで寄稿してきた方々の名簿を見て……、やばい、みんな寄稿してるやん。結局、松山支部の西森さんにご協力いただき、なんとかバトンを繋ぐことが出来る事へ。次のバトンは松山支部の高橋健太郎さん、よろしくお願いいたします。

この原稿依頼を受け、まだまだ、けんちくの輪を広げなくてはと思った、わたしのけんちくの輪でした。



▲ 建築の日の事業「目指せ建築士！安全な橋をつくろう。」

謹賀新年 2023年

<p>有限会社 トータルシール工業</p> <p>代表取締役 山本 一</p> <p>〒790-0056 松山市土居田町292 TEL089-974-2422 FAX089-972-6822</p>	<p>在学中に二級建築士+学士のW取得が可能！</p> <p>学校法人 河原学園 河原デザイン・アート専門学校</p> <p>校長 白石 隆保</p> <p>〒790-0002 愛媛県松山市二番町1-12-2 TEL089-931-9111 FAX089-946-0074 http://kawahara.ac.jp</p>
<p> 株式会社 愛媛建築住宅センター</p> <p>代表取締役 井上 竜治</p> <p>〒790-0003 愛媛県松山市三番町4-4-7 松山建設会館3F TEL089-931-3336 FAX089-931-3362 http://www.ehime-center.co.jp</p>	<p>株式会社 国代耐火工業所大阪支店</p> <p>支店長 岩城 隆晴</p> <p>〒541-0046 大阪府大阪市中央区平野町4-6-16 TEL06-6229-9246 FAX06-6229-9247 http://www.agorabrix.co.jp</p>
<p> 人と自然の調和 尾藤建設株式会社</p> <p>代表取締役 尾藤 淳一</p> <p>〒799-0101 四国中央市川之江町2250 TEL0896-58-2426 FAX0896-57-1563 https://bitoh.co.jp</p>	<p> 株式会社 友清白蟻</p> <p>代表取締役 山辺 利成</p> <p>〒799-2654 愛媛県松山市内宮町513番地 TEL089-978-2630 FAX089-979-6212 https://tomokyo.co.jp</p>
<p> 株式会社 横田建設</p> <p>代表取締役 横田 郁</p> <p>〒791-8015 愛媛県松山市中央一丁目9番20号 TEL089-922-4181 FAX089-923-3843</p>	<p>創業30余年の信頼と実績</p> <p>有限会社 福田瓦工業</p> <p>代表取締役 福田 大輔</p> <p>〒791-8041 愛媛県松山市北吉田町1022番地1 TEL089-968-6118 FAX089-968-6119 https://fukuda-kawara.co.jp</p>
<p>一般社団法人 愛媛県中小建築業協会</p> <p>会長 佐々木 敬史</p> <p>〒790-0878 愛媛県松山市勝山町2-3-1 TEL089-943-5525 FAX089-943-5545 http://hime-ken.com</p>	<p>有限会社 山口鉄筋</p> <p>代表取締役 山口 勇人</p> <p>〒791-8044 愛媛県松山市西垣生町350-1 TEL089-973-4031 FAX089-973-4036 https://www.yamaguchitekkin.com</p>
<p> 家を守る 地球を守る やさしいガラス 八松硝子建材(株)</p> <p>代表取締役 佐々木 隆司</p> <p>〒791-1102 愛媛県松山市来住町14-4 TEL089-975-3309 FAX089-975-3310 http://www.hassho.net</p>	<p>自然を生きし未来へ繋ぐ</p> <p>株式会社 宮田建設</p> <p>代表取締役 奥田 賢司</p> <p>〒798-0004 愛媛県宇和島市朝日町4-3-25 TEL0895-22-1567 FAX0895-25-0009 http://miyata-kensetsu.jp</p>

私たちは(公社)愛媛県建築士会の賛助会員です。

謹賀新年 2023年

 <p>株式会社 二宮工務店 取締役松山支社長 二宮 広明</p> <p>〒790-0934 愛媛県松山市居相4-22-18 TEL089-956-2888 FAX089-956-2889 http://www.ninomiyakoumuten.com</p>	<p>有限会社 石丸ガス商会 代表取締役 石丸 泰弘</p> <p>〒790-0004 愛媛県松山市大街道3丁目2番地41 TEL089-921-2505 FAX089-921-2405</p>
 <p>マルマストリク 今治・松山・宇和島・大洲・西条・四国中央・多度津 TEL0898-32-5000(代) FAX0898-31-5513</p>	<p>「安心と信頼」の地盤づくり <i>Trust and Peace of Mind</i> 東昇技建株式会社 TOSHO 代表取締役 小泉 啓典</p> <p>〒791-1113 愛媛県松山市森松町147-1 TEL089-970-6814 FAX089-970-6815 https://www.tosho-g.jp</p>
<p>総合資格学院 松山校 学校長・支店長 山下 健司</p> <p>〒790-0003 愛媛県松山市三番町7-13-13ミツネビルディング7F TEL089-947-2611 FAX089-947-2622 http://www.shikaku.co.jp/guide/chugoku_shikoku/matsuyama/top.html</p>	<p>品質にこだわり仕事に誇りを kiss コーエキ 株式会社 代表取締役 明関 一博</p> <p>〒790-0913 愛媛県松山市畑寺3-11-31 TEL089-946-1141 FAX089-932-8499 http://www.kissjp.com</p>
 <p>KANSAI PAINT 関西ペイント販売株式会社</p> <p>丸亀営業所 / 〒763-8510 香川県丸亀市土器町2丁目88 TEL0877-24-5484 FAX0877-24-4950 https://www.kansai.co.jp</p>	<p>株式会社 岸之上工務店 代表取締役社長 岸之上 憲一</p> <p>〒780-0033 高知県高知市西秦泉寺435番地1 TEL088-822-2222 FAX088-822-5833 https://www.kishinoue.co.jp</p>
<p>スタイロフォーム、各種断熱材を提供する 木野内化成産業 株式会社 取締役社長 山内 正卓</p> <p>〒790-0052 愛媛県松山市竹原町1-5-5 TEL089-941-9242 FAX089-932-7212 http://kinoutikasei.co.jp</p>	<p>ダイヤアルミ 株式会社 取締役 酒井 才次</p> <p>〒799-3111 愛媛県伊予市下吾川1873番地 TEL089-982-8810 FAX089-982-8815 http://www.daiyaalumi.co.jp</p>
<p>株式会社 松山合板社 代表取締役 大野 健夫</p> <p>〒790-0062 愛媛県松山市南江戸1丁目2番2号 TEL089-931-8268 FAX089-933-9274 http://www.matsugou.jp</p>	 <p>日本ERI株式会社 http://www.j-eri.co.jp</p> <p>松山支店 松山市三番町7-1-21 ジブラルタ生命松山ビル3F TEL089-913-6311 FAX089-913-6353</p>

私たちは(公社)愛媛県建築士会の賛助会員です。

愛媛県しろあり対策協会

会長 友清 重孝

〒791-8001 愛媛県松山市平田町502
TEL089-979-6692 FAX089-979-6692
<http://hakutaishikoku.com>

サステナブルな地盤改良工法
株式会社 **ライフベース**

代表取締役 濱田 康佑

〒791-1121 愛媛県松山市中野町177-4
TEL089-993-5856



愛媛総合警備保障株式会社

代表取締役社長 阿部 克彦

〒790-0054 愛媛県松山市空港通二丁目6番27号
TEL089-971-2010 FAX089-974-0551
<https://www.alsok-ehime.co.jp>



代表取締役 西村 壮平

〒791-3163 愛媛県伊予郡松前町大字徳丸1197-1
TEL089-909-6830 FAX089-909-6850
<https://kawaracenter.jp>

美しさやすらぎを創造する…



代表取締役社長 赤岡 泰光

〒799-1342 愛媛県西条市大新田94
TEL0898-64-2421 FAX0898-64-4034
<https://www.fujiwara-chemical.co.jp>



<https://www.shintsu-group.co.jp>



代表取締役 井原 伸

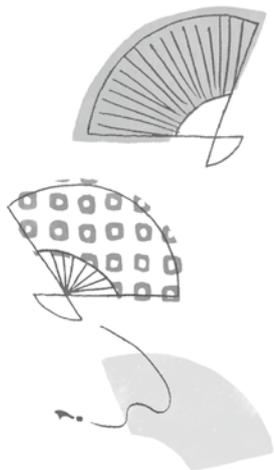
〒799-0404 四国中央市三島宮川四丁目2番18号
TEL0896-24-4435 FAX0896-24-4030
<http://www.iharakogyo.co.jp>

オフィスの未来に、ちょっとソリューション。



アカマツ株式会社 松山本社 / 〒790-8533 松山市福音寺町235番地の1 TEL:089-975-1234 FAX:089-976-6364
営業所 / 宇和島・八幡浜・大洲・今治・西条・新居浜・四国中央・普通寺・高松・徳島・神戸・東京
www.akamatsu.co.jp

私たちは(公社)愛媛県建築士会の賛助会員です。



あなたの原稿をお待ちしています。

公益社団法人として、異業種や全ての皆様から建築士会の枠を超えて原稿を広く募集して広く購買して頂くようにしています。是非、寄稿して頂きますようお願い致します。本年度は年6回発行となります。(尚、営業的色彩の濃いものにつきましては、掲載されない場合もありますので、ご了承ください。)

「いしづち」の次号の原稿締切日

令和4年 3月号 (151号) 令和5年1月26日(木)

※校正印刷の関係で締切延長の最終期限は一週間後の木曜日とします。

※1ページ写真込みで2150文字(25文字×43行×横2段)のWORD様式を事務局で用意していますのでご活用ください。

写真は1ページ当たり3枚程度まで題名を付けて添付してください。

また宜しければ投稿者の写真(免許写真程度の顔写真)を添付してください。

会員の皆様のご参加をお待ちしております。また記事等についてのご意見・ご感想もお寄せください。

(尚、投稿された原稿につきましては、要旨を変えない程度の若干の訂正等を加えることがあるかもしれませんので予めご了承ください。)

この誌面を通じて、会員の方々、そして一般の方々にも、建築についての対話等の輪が広がればと願っています。
情報・広報委員会

読者の声欄

「いしづち」に関するご意見・ご提案などをお寄せください。お待ちしております。

「いしづち」編集委員会(土会事務局内)宛
FAX 089-948-0061

編集後記

考えてみれば早いもので、私がこの広報・情報委員長を拝命して5回目のお正月がやってきました。思い起こせば、毎年自分の中での流行りが違うことに気が付きました。一昨年度は旅行と山登り、昨年度は旅行と神社仏閣巡り、今年度は旅行と日本の歴史です。

家族にも話していないここだけの話ですが、今年度に入り歴史好きが功を奏し、日本国史学会の一般会員にもなりました。改めて日本の歴史を学ぶと日本の素晴らしさを知り、日本人として生を受け誇らしく思え、自己肯定感に満ち溢れ始めました。

ということで、新しい年を迎え、自分の大好きな事を見つけ、それを楽しみ、新たな挑戦をする一年にしてみてもどうでしょうか。

私はこの編集後記を使って、日本を大好きになれる日本の歴史話をして行こうと思っています。お楽しみに!

〈いしづち〉2023/1

令和5年1月発行

発行人 会長 尾藤淳一

発行所 公益社団法人 愛媛県建築士会

〒790-0002 松山市二番町四丁目1-5 愛媛県建築士会館2F

TEL(089)945-6100 FAX(089)948-0061

<http://www.ehime-shikai.com>

印刷所 アマノ印刷株式会社

情報・広報委員会・広報委員

委員長/大平 将司 副委員長/渡邊 道彦

編集委員/河合 優志 西岡 亜有美 西森 勉 花岡 晶子